

**厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）**  
**小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究**

井内 康輝 広島大学医学部長  
橋本 康男 広島大学 大学情報サービス室助教授  
山内 雅弥 中国新聞社 編集委員  
前川 秀雅 新谷・前川法律事務所 弁護士  
黒田みさよ エンジェル・ネットワーク 事務局長

**厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）**  
**小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究分担者・名簿**  
**分担研究「小児科・産科医師の育成の支援方策に関する研究」**  
**（救急医療に従事する若手小児科医のための相談電話対応の開発）、**  
**研究者・協力者名簿**

分担研究者 桑原 正彦 広島県地域保健対策協議会・  
小児救急医療支援専門委員会委員長  
研究協力者 上田 一博 広島市立安佐市民病院 院長  
清水 凡生 呉大学看護学部教授  
三浦 公嗣 広島県福祉保健部部長  
川本 功一 川本小児科医院長  
藤井 肇 広島市立舟入病院長  
新田 康郎 広島県医師会常任理事  
西村真一郎 広島大学医学部附属病院講師（小児科学）

## 協力執筆者

---

井上 純一 (広島県医師会 常任理事)  
岡田 克樹 (岡田眼科医院 院長)  
川本 功一 (川本小児科 院長)  
桑原 正彦 (広島県小児科医会 会長)  
杉原 雄三 (こどもクリニック八本松 院長)  
新田 康郎 (広島県医師会 常任理事)  
前川 秀雅 (新谷・前川法律事務所 弁護士)  
宮脇 浩 (宮脇耳鼻咽喉科医院 院長)  
八谷 秀幸 (広島県福祉保健部保健医療総室 医療対策室 政策医療G主査)  
森下 和是 (広島県福祉保健部保健医療総室医療対策室 政策医療G企画員)  
佐々木喜代 (広島県医師会 地域医療課 課長)  
市玖のりえ (広島県医師会 地域医療課 係長)

### 小児救急電話相談対応マニュアル

2003年10月

発行者 広島県地域保健対策協議会

印刷 レタープレス株式会社

厚生労働科学研究費補助金  
子ども家庭総合研究事業  
小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究班

# 小児救急電話相談、広島

## 相談事例集

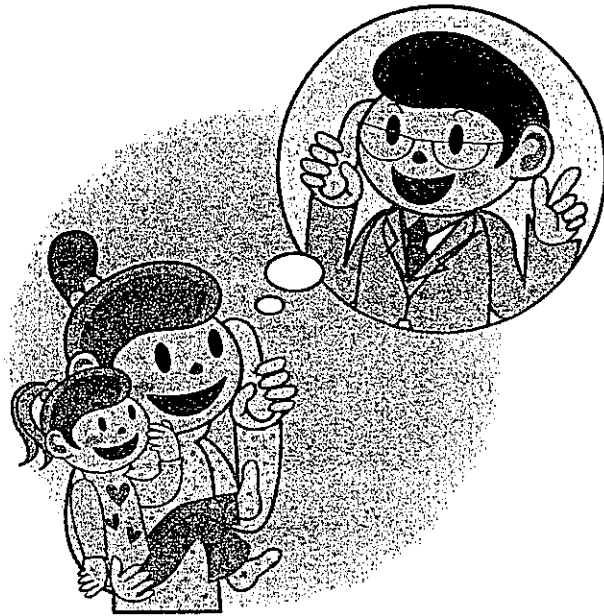
こどもの救急電話相談

☎082(235)1399



広島県地域保健対策協議会 小児救急医療支援専門委員会

平成17年1月  
広島県地域保健対策協議会 小児救急医療支援専門委員会



## 目次

はじめに

I 概要について…………… 1

II 事例編…………… 3

内科編

1. 高熱…………… 4

2. 発熱・咳…………… 29

3. 喘鳴…………… 44

4. 呼吸困難…………… 48

5. 嘔吐・下痢…………… 49

6. 腹痛…………… 59

7. 血便…………… 62

8. 発疹…………… 64

9. けいれん…………… 75

10. ぐったり…………… 80

11. 不機嫌…………… 82

12. 誤嚥…………… 83

外科編

13. 耳鼻科的症状…………… 85

14. 眼科的症状…………… 87

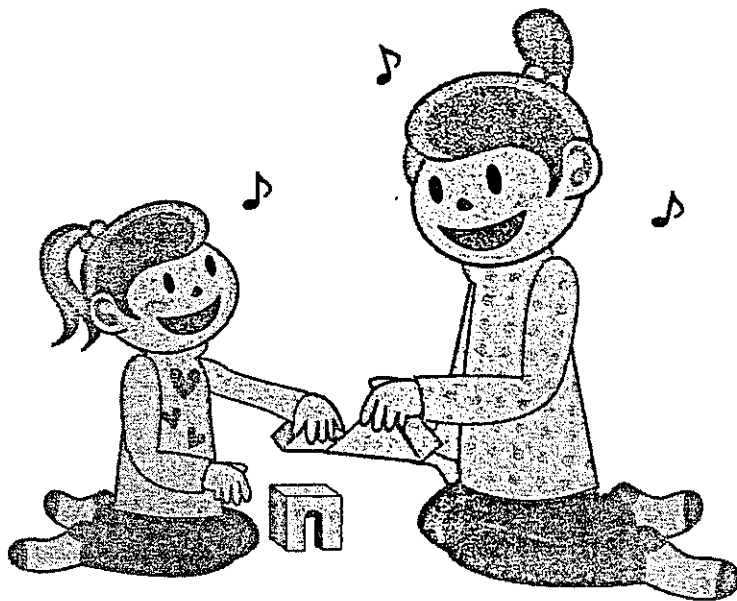
15. 頭部打撲…………… 90

16. その他の打撲…………… 95

17. その他…………… 98

III 資料編……………101

おわりに



## はじめに

育児不安を根底にした小児医療、とりわけ小児時間外医療にたいする国民の不満は、平成13年ごろには頂点に達していた。ひきつけを起こした患児のたらいまわし事例、発疹の診断に不信感を抱いた保護者が病院理事長の告訴寸前までになった事例など、その現われの一部である。行政や医療界の対応も後手にまわり、「小児科医が足りない」を理由にして、言い訳がましく対応していた。

一方、過疎や中山間地域の多数の病院小児科の対応は、津波のように押し寄せる夜間の急患を診察して、時には容態の悪化した入院患児の対応に徹夜をして、翌日は平常の勤務に入る勤務形態を繰り返した。2-3人で構成している病院小児科の、殆どの勤務医は疲労困憊し、燃え尽きてしまう若手小児科医も多数出現した。その現実が、病院の理事長や経営者に理解してもらえない小児科医の悩みが、日本医師会や日本小児科学会を通じて、大きな声となってきた。初期小児医療の殆どを担う日本小児科医会もようやく立ち上がり、時間外診療の具体的な方法についての検討を開始した。

この問題の一方の原因は、保護者側にある。愛児を思うその気持ちが、「安心できるよい病院で」「できるだけ小児科医に」となって、病院小児科や設備の整った小児急患センターに集中する。そのために、小児の伝染病の流行時には2-3時間待ちは普通となって、保護者の時間外医療体制への不満が爆発する。社会の生活スタイルも変って、夜でないといふ愛児の顔が見られない保護者もふえてきた。しかし、それ以上に、医療情報の氾濫である。知識はあるが、いざ、高熱の愛児に当てはめてどうすればよいか、迷ってしまう。さらに愛児の救急処置が必要な際の、家庭での看護力の低下は目に余るものがある。

「小児救急電話相談」は、まさに保護者の育児不安解消のためには、大きなツールである。「今、行くべきか、明日まで待つてよいか」が本事業のキャッチフレーズである。

また、本事業の中で、「119番に電話してすぐ行きなさい」と助言した例が、4,351例のうち12例あったことも、見逃せない事実である。

「患者・保護者教育とある程度のトリアージ」が本事業の目的である。しかも、「助言」に徹すること。決して、前医の治療の中傷をしたり、現在の治療の誹謗をしたりしてはいけない。患児の対応についての判断は、保護者が決めるのである。

「小児科医が行う小児救急電話相談」の発想は、日本医師会・小児救急医療体制のあり方に関する検討プロジェクト委員会の報告書(平成14年3月、委員長、桑原正彦)において出された。それを受けて、平成14年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」(主任研究者、鴨下重彦)の研究事業として3年間の研究を重ねた。平成16年度から、厚生労働省事業課(谷口隆課長)の補助事業として、全国展開を開始した。平成17年4月には約20都道府県が本事業を立ち上げる予定である。

本事業の実施に当たっては、いろいろな問題点がある。小児科医が少ないところはどうか、費用が足りない、看護師で代役できないか、365日体制、24時間体制はどうかなどなど。

そのなかで、重要な条件の一つは、相談員の優れた電話相談技術である。本事例集は、相談医(小児科医)の助言がどのように、利用者の行動に繋がったかを検証したものである。本書を、相談員の相談技術向上に、ぜひ利用していただきたい。

終わりに、3年間の本事業に相談員としてご協力いただいた広島県の開業小児科医の有志の先生方に感謝いたします。

また、広島県地域保健対策協議会(碓井静照会長)と事務局の皆様、広島県福祉保健部(新木一弘部長)、広島市社会局保健部(吉岡嘉暁部長)、本事業評価委員会の皆様に感謝いたします。

平成17年1月

広島県地域保健対策協議会  
小児救急医療支援専門委員会  
委員長 桑原 正彦



## I 概要について

厚生労働科学研究事業として、広島県地域保健対策協議会・小児救急医療支援専門委員会を受け皿に、平成14年9月より土日・祭祝日の18時から23時の準夜帯に、広島県内の開業小児科医による電話相談を約3年間実施してきた。平成17年3月末で本事業は終了する。

全国にさきがけて、広島県が小児救急電話相談を試行した約3年間の内容の一部を「事例集」という形で今回まとめた。

平成16年度から厚生労働省による小児救急電話相談事業が全国展開している。その背景にはつぎのようなことが伺える。近年の少子化・核家族化の影響により、乳幼児・就学児等を持つ保護者が育児に関する適切なアドバイスを行うことができる者を身近に見出すことが困難になりつつあること。また、医療に関する情報の氾濫が保護者の側の不安を増長させており、大病院志向、専門医志向が顕著となっている現実がある。そのため、夜間等に突然の発病時の対応が出来ず、時間外受診や救急病院への受診が集中し、診療までの待ち時間が長くなるなど、本来の救急患者の診療に影響がでている小児拠点病院も少なくない。

そこで、子どもが緊急に受診する必要があるのか、このまま様子を見ていいのか、翌朝まで待って受診すればよいのか等の判断に迷う保護者に対応するため、休日夜間であっても気軽に子どもの救急医療相談ができる窓口を開設し、小児科救急医療を必要としている県内の保護者からの電話相談に応じた。

相談に対応する者は、県内の熟練開業小児科医である。相談を通じて得られる情報から、患児の重症度の鑑別、軽度初期患児に対する初期対応の手法の助言等、初期小児救急の現場で必要な助言を適切に行ってきた。

小児救急を担うべき若手小児科医を確保し、育成することが今後重要な課題であるが、小児救急の現場に来院する患児は必ずしも重症とは限らず、電話等による照会も少なくないことを勘案すると、保護者からの電話相談に適切に対応できる技術を、特に若手小児科医が会得することによって、育児不安等を軽減し、二次救急病院への受診を抑制し、小児救急を受診する患児の減少と特に基幹的病院の第一線の小児科医の負担の軽減が期待でき、小児医療の質の向上に資するものと考えられる。

平成15年度は、小冊子「小児救急電話相談マニュアル」を作成し、各科の小児患者への対応手段や、県内の地区医師会立急患診療所、小児拠点病院や

二次救急医療機関等の一覧を掲載した。

今回の「小児救急電話相談事例集」は、平成16年9月末までに実際に相談があった約4,351件のうち、アンケート調査（満足度調査）の郵送可能で且つ回答のあった1,349件（回答率43.9%）の中から95件にしぼりこんで掲載した。事例内容については患児の保護者である相談者が、相談小児科医の助言をどのように受け止めて、どのような行動をとったのかを記載した。あわせて、利用者の今後の利用を希望するかどうかを盛り込んでいる。

カテゴリは「高熱」、「発熱・咳」、「喘鳴」、「呼吸困難」、「嘔吐・下痢」、「腹痛」、「血便」、「発疹」、「けいれん」、「ぐったり」、「不機嫌」、「誤嚥」、「耳鼻科的症状」、「眼科的症状」、「頭部打撲」、「その他の打撲」、「その他」の17に分類し、各事例内容については普遍的で教育的な症例をわかりやすいよう工夫して記載した。

事例集のスタイルは「相談小児科医の助言」や「相談後の患児の行動」、本委員会の「ワンポイントアドバイス」を記載した。利用者の満足度については帯グラフで示している。

### ■事例集の見方

カテゴリを示す

**No.** 患児の年齢、性別を示す

**症状**

主な症状

**相談小児科医の助言**

上記の事例の具体的な助言について述べている。

**相談後の患児の行動**

相談小児科医の助言通りに行動したかどうか。

**相談者の満足度**

利用者からみた、相談小児科医の対応、内容についての感想を帯グラフで示す。

	—不満		満足—
医師の対応	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; position: relative;"> <div style="background-color: black; width: 30%;"></div> <div style="background-color: #cccccc; width: 40%;"></div> <div style="background-color: white; width: 30%;"></div> </div>		
医師の説明	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; position: relative;"> <div style="background-color: black; width: 30%;"></div> <div style="background-color: #cccccc; width: 40%;"></div> <div style="background-color: white; width: 30%;"></div> </div>		

	—不満		満足—
今後の利用	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; position: relative;"> <div style="background-color: black; width: 30%;"></div> <div style="background-color: #cccccc; width: 40%;"></div> <div style="background-color: white; width: 30%;"></div> </div>		

👤👩👦👧👨👪👶👷👮👰👱👲👳👴👵👶👷👮👰👱👲👳👴👵

本委員会の意見や相談小児科医が相談者（利用者）に対して行った助言を記載している。

高熱

## II 事 例 編

事例

高熱

No.1

年齢：8才（男）

症状

発熱40℃、頭痛、吐気、嘔吐あり。1回軟便があった。市販の薬を服用したが、どうすればよいですか。

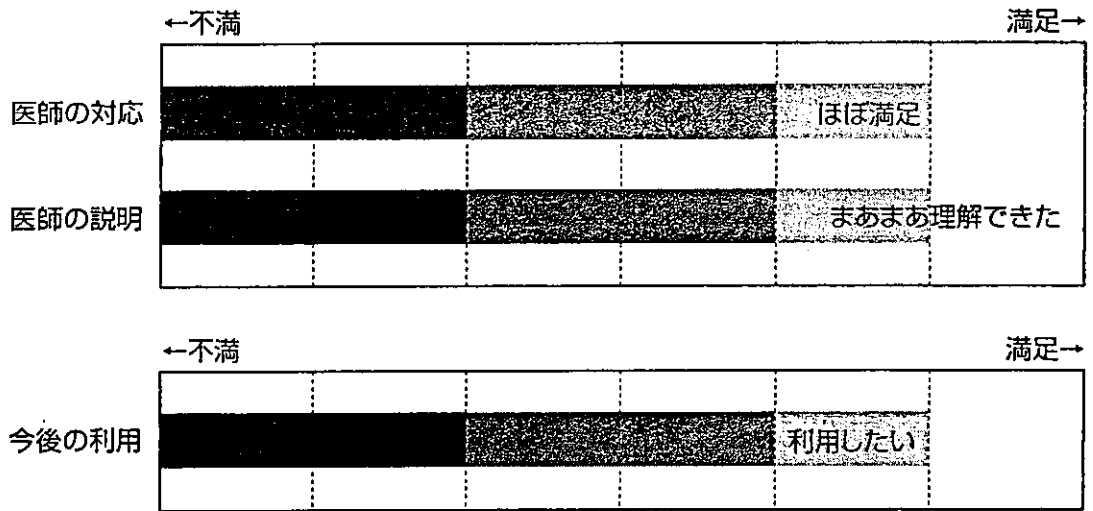
相談小児科医の助言

受診が必要です。すぐ病院に行くようにすすめた。

相談後の患児の行動

すぐに救急病院に行った。

相談者の満足度



ワンポイントアドバイス

発熱の他に、頭痛、嘔吐があれば髄膜炎の疑いで救急対応をしてください。

No.2

年齢：11ヶ月（男）

症状

発熱39℃、嘔吐3回。熱さましの座薬100mgを半分入れて36.7℃まで下がったが、再び38.8℃に上がった。2ヶ月前に気管支炎で入院した。

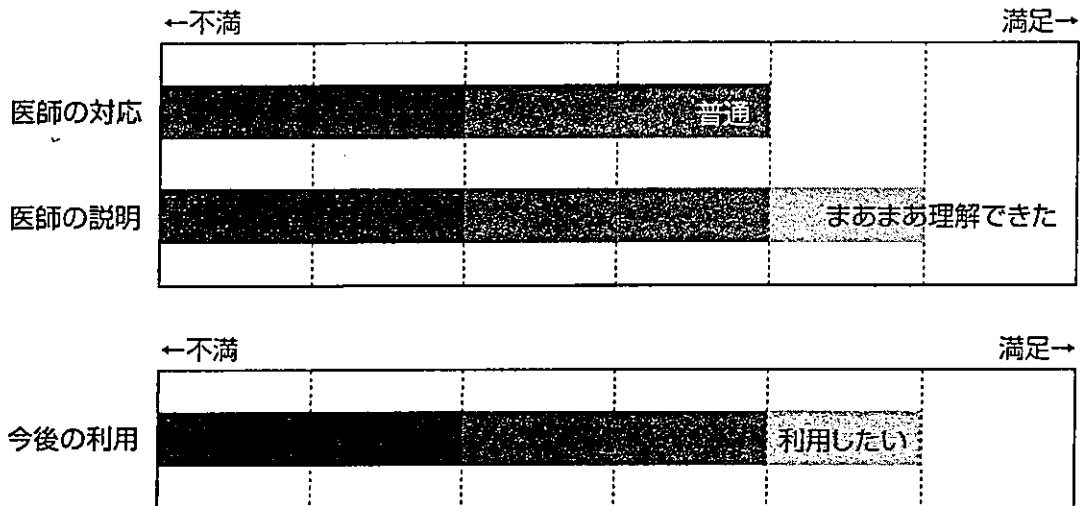
相談小児科医の助言

病院に行くようにすすめた。

相談後の患児の行動

すぐに救急病院に行った。

相談者の満足度



② ワンポイントアドバイス

2ヶ月前に入院治療を受けていたので、抵抗力が低下しているのかもしれない。解熱剤だけに頼るのは危険です。

No.3

年齢：4才8ヶ月(男)

症状

発熱40℃、嘔吐。今まで発育が遅く、よく熱がでる。解熱剤を使ったが熱がまだある。救急病院は混んでいるので行きたくない。

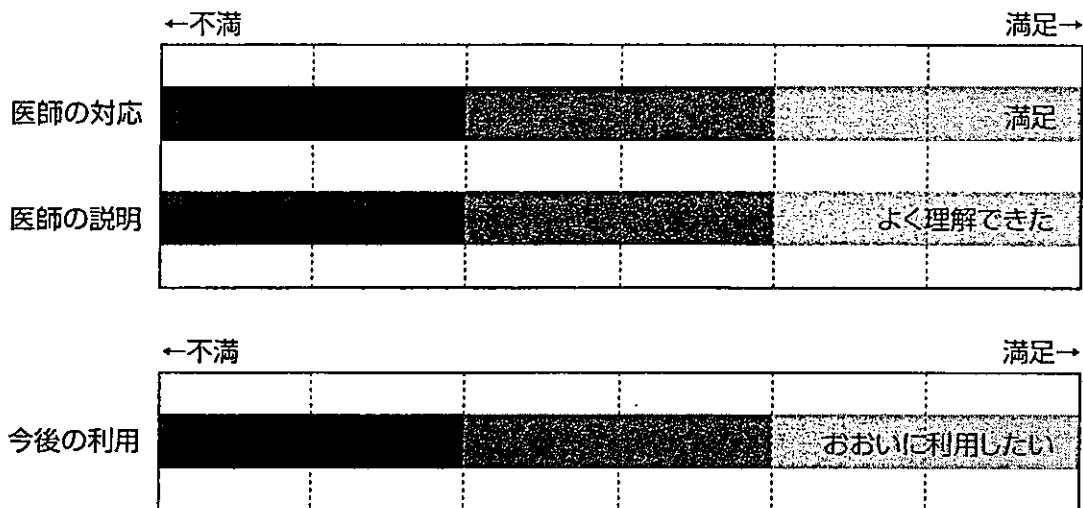
相談小児科医の助言

しばらく様子を見て病院に行くようにすすめた。早朝は比較的空いています。解熱剤（アンヒバ）は6時間待って下さい。

相談後の患児の行動

相談しただけで納得した。

相談者の満足度



ワンポイントアドバイス

元々病気がち。救急外来での感染を危惧する親の気持ちがあるので、その気持ちを理解してあげて下さい。

No.4

年齢：6才（男）

症状

発熱40℃。昨夕より発熱、昨夕と今日救急病院に。  
(電話の応答が不確実)。

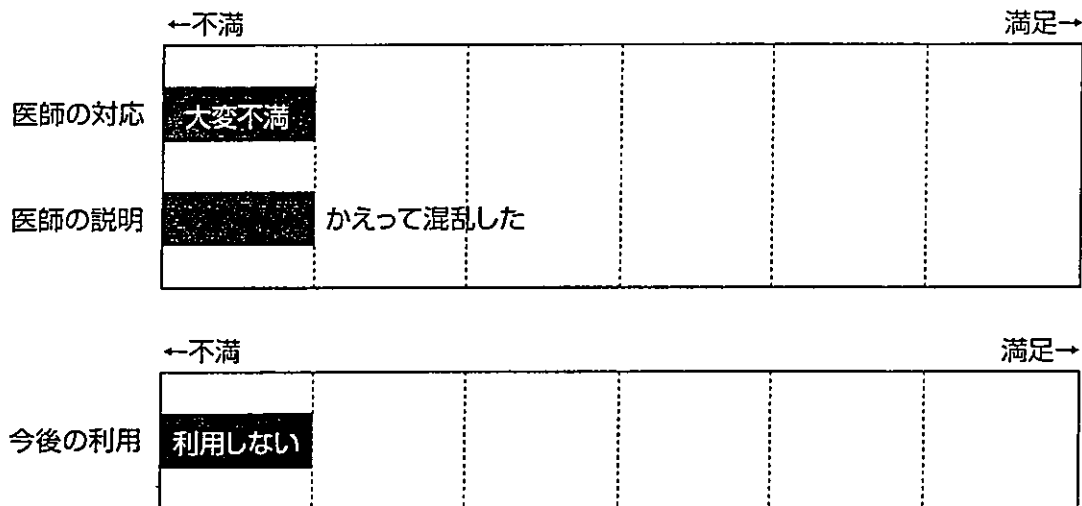
相談小児科医の助言

病院に行くようにすすめた。

相談後の患児の行動

すぐに救急病院に行った。

相談者の満足度



ワンポイントアドバイス

はっきりと症状をメモして、電話をかけるように。電話相談の前に、心配なこと、症状などを確認しながらの方が相談にこたえやすいと説明して下さい。相談医は感情的にならないように。

No.5 年齢：3才9ヶ月（男）

症状

発熱40.2℃、鼻水。食欲は少し。水分はとれている。座剤を嫌がるので冷やすだけでも良いでしょうか。

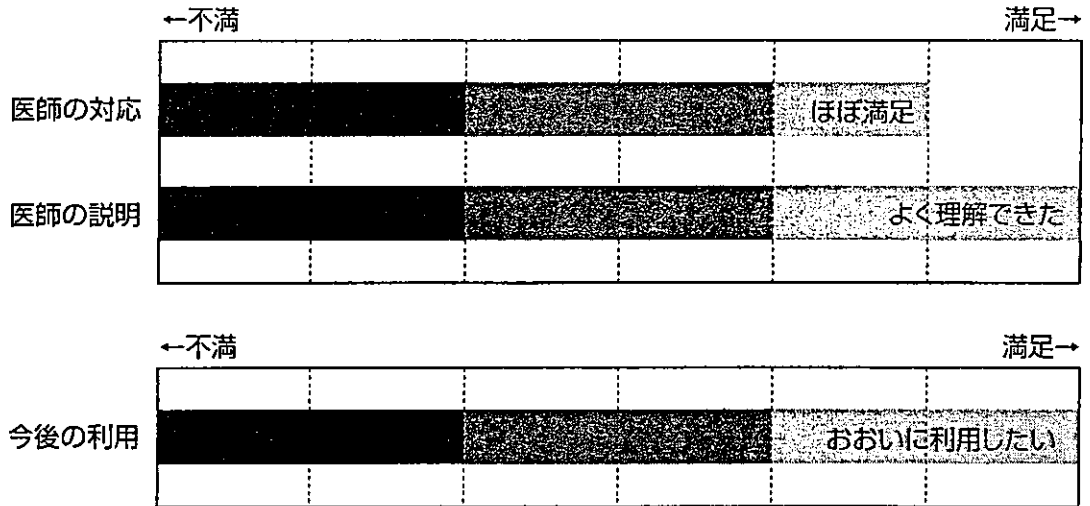
相談小児科医の助言

心配ないので、昼間かかりつけ医に行くように言った。水分がとれているので座薬を入れずに様子を見て下さい。無理に座薬を入れなくても良いです。冷やし過ぎないように水分を十分とらせる。

相談後の患児の行動

様子を見たが、受診する必要はなかった。

相談者の満足度



ワンポイントアドバイス

適切なアドバイスです。



No.6

年齢：10ヶ月（男）

症状

発熱40℃、5日前発熱、咳のため、小児科を受診し薬をもらった。2、3日前から下痢。本日昼から嘔吐が2、3回あり。離乳食を食べると嘔吐する。水分はとれる。

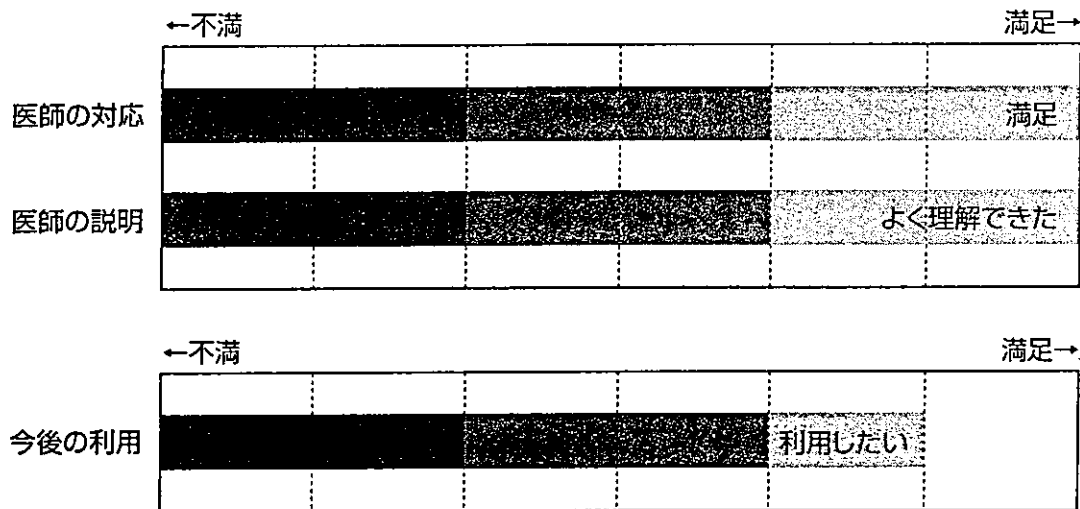
相談小児科医の助言

心配ないが、何かあれば病院に行くようにすすめた。離乳食は今日はやめて水分を少しずつとるようにして下さい。嘔吐が頻繁になり顔色不良なら病院へ。

相談後の患児の行動

翌日の昼間にかかりつけ医に行った。

相談者の満足度



ワンポイントアドバイス

脱水症状の時は発熱時の水分補給は少量・頻回に。嘔吐が続くなど経過が長ければ病院へ行くようにすすめて下さい。できれば、昼間に受診した方がよい旨、説明して下さい。

No.7

年齢：6ヶ月（男）

症状

鼻水、咳が少し出ていた。入浴後顔が赤いので熱を測ったら38.7℃あり。普段と比べ少し不機嫌。母乳は普段通り飲む。軟便が2回。その後右の頬だけ赤くなっている、何か原因があるのでしょうか？

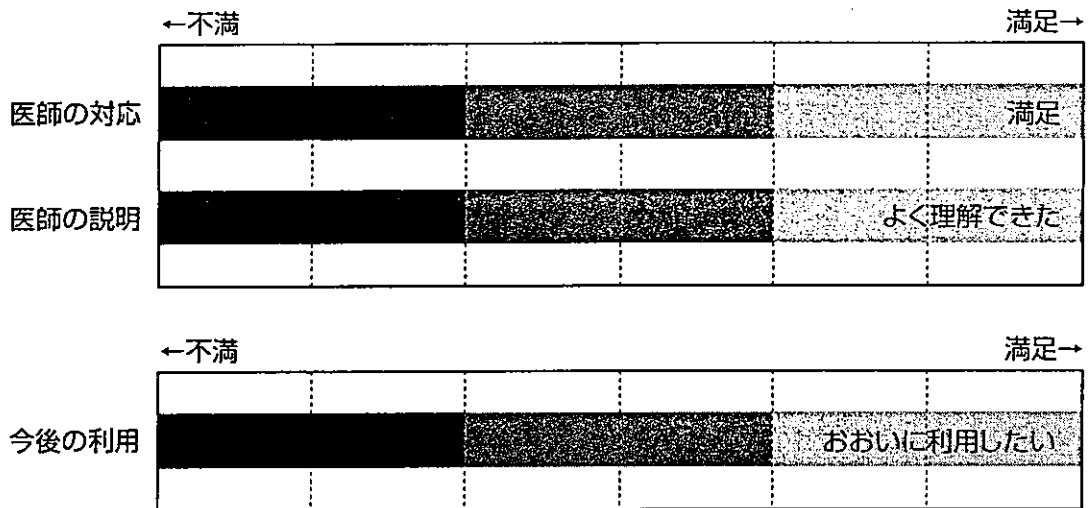
相談小児科医の助言

心配ないが、何かあれば病院に行くようにすすめた。今の状態なら様子を見てよい。手足が冷たいならまだ熱が出るので手足を冷やさないように温めてあげて下さい。もし、咳、喘息、顔色が悪くなるようなら医療機関へ。右頬の赤みは触って痛がったり、腫れたりしていなければ心配ないでしょう。

相談後の患児の行動

翌日の昼間にかかりつけ医に行った。

相談者の満足度



ワンポイントアドバイス

今のところ、母乳を飲めているので大丈夫ですが、不機嫌が持続したり、ミルクを飲まなくなったり、嘔吐があれば要注意するように説明して下さい。

No.8

年齢：2才（女）

症状

本日夜、発熱39.2℃。数日前かかりつけ医に受診し、扁桃炎といわれた。もらった薬が残っている。

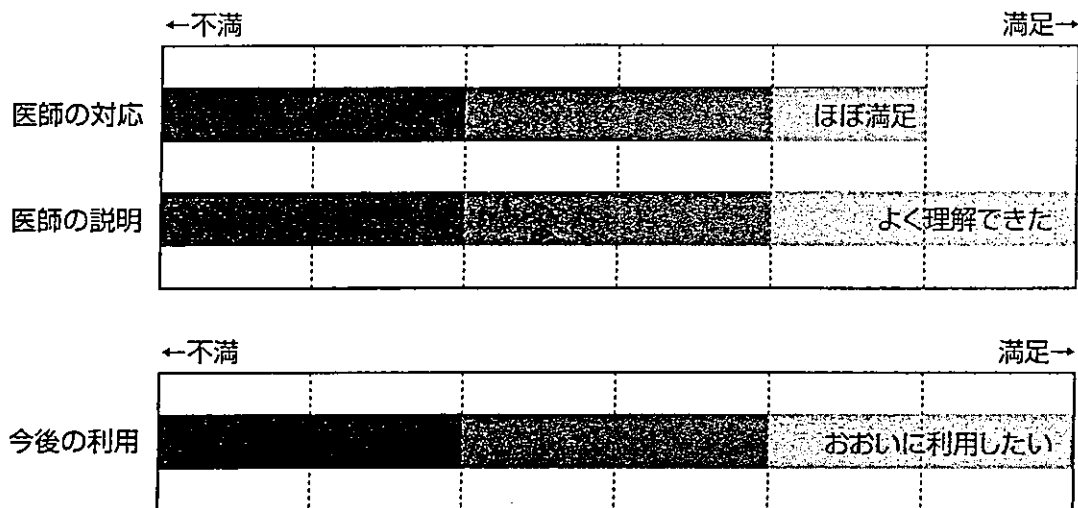
相談小児科医の助言

抗生物質があるので今夜服用し、不機嫌であれば解熱座剤を使用し、明日の様子により病院に受診のこと。

相談後の患児の行動

翌日の昼間にかかりつけ医に行った。

相談者の満足度



ワンポイントアドバイス

扁桃炎の熱は3日前後続くことが多いですが、全身状態がよければ、心配ないと思われます。

No.9

年齢：4才（女）

症状

発熱40℃、嘔吐。機嫌は悪くないし、元気もある。水分は少ししかとらない。口唇が乾いている。今日座薬を使用した。

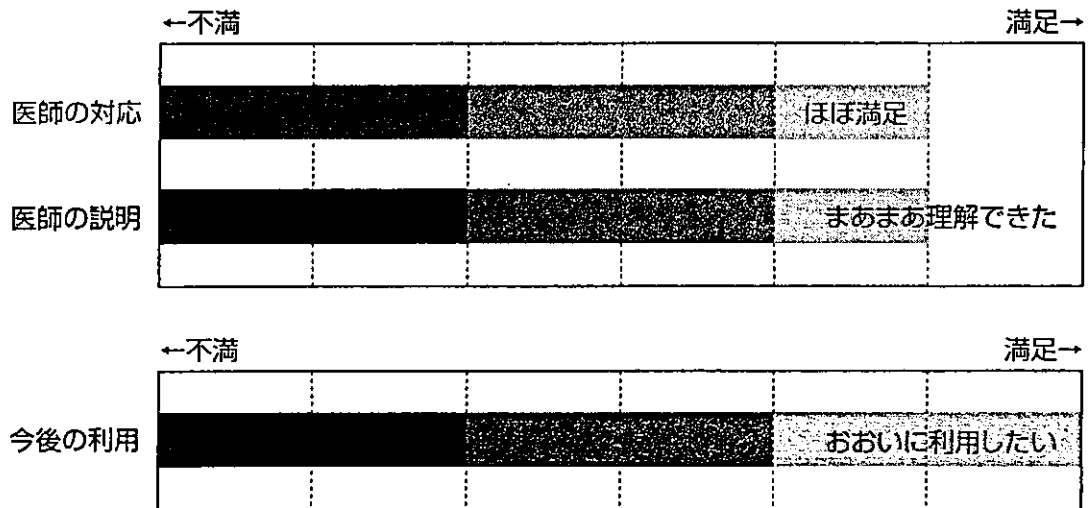
相談小児科医の助言

心配ないが、何かあれば病院に行くようにすすめた。

相談後の患児の行動

翌日の昼間にかかりつけ医に行った。

相談者の満足度



ワンポイントアドバイス

少し脱水傾向はありますが、4才という年齢で元気もあるとのこと。一晩、様子を見てよいという助言でよいと思います。子どもの病気は、「元気があるかないか」が大切です。